

平成 27 年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業報告書

「自主性と創造性を磨く、魅力ある職場作り！」と、目標が掲げられている。自主性には、独自で、まず考え、皆に打診し、良ければ行動するよう努めた。魅力ある職場作りは、まず楽しい雰囲気作りに努めた。信頼関係の構築に努めた。

施設全体で接遇や虐待防止に力を入れているので、継続的に出来るよう努めた。

1. 健康管理

(1) 日常的な健康維持・増進の為、プログラムの策定とその推進、身体的、精神的疾病のある入居者様に対しては、常に健康状態に注意し、疾病の早期発見、予防等の健康保持の為の適切な措置をとるよう努めた。

(2) 受診や往診がスムーズに行えるよう努めた。また医師との連携を図り、異常の早期発見に努め、入院された際は、病院での入院生活が長引くと、刺激も少なく、認知症が進む可能性があるので、進行抑制する為に、地域連携室に連絡を取り、早期退院に向けアプローチをした。

2. 緊急時の対応

個々の入居時に看取り介護のアンケートに御記入頂き、緊急時どのように対応したら良いかを検討する。主治医の協力の下、御指導を仰ぎ、入居者様や御家族の御希望に沿うよう努めた。日頃より緊急時における対応を話し合い、疾病のある入居者様で予測する事が可能性のある方は介護職に伝えるよう努めた。部署研修で救急蘇生法や、誤嚥時の対応、吸引について研修を行った。

3. 安全対策

入居者様の疾病の進行や予後が分かる場合は、予め予測し、危険の回避に努めた。今年も、ヒヤリハットを継続し、薬セットの間違いの件数を減らす様、努めた。

4. 科学的介護

水分摂取について1日 1,500ml 以上を目標としている。疾患で、脱水症、脳梗塞、認知症、便秘症、尿路感染症等、さまざまな疾患を予防し、心不全、胸水、誤嚥性肺炎を繰り返される方、腎不全等の持病がある方には、主治医に相談し、適切な1日の水分摂取量を御提示して頂き、症状の悪化に繋がらない様、努めた。

5. 虐待防止

施設より全体会議で、虐待についての講義があり、出席し、認知度を高め、言葉遣

いや態度に注意し、忙しい時は一呼吸おいて言葉を発する様努めた。

6. 機能訓練

生活リハビリは最も優れていると思う。例えば日常動作で可能な範囲で、トイレやフロアに出て頂く際に端坐位、起立、歩行の援助を行う。入浴時、脱衣等で可能な範囲で入居者様に動作をして頂く。食事動作も可能な範囲で御自分の出来る動作はして頂き、食べて頂く。ラジオ体操を取り入れている。可能な方は洗濯物を畳んで頂く。散歩をして頂く。介護職が行えるようサポートし充実していくよう見守った。

7. 業務の充実とレベル向上

- (1) 看護師として専門性を高め入居者様にサービスを提供していけるよう努めた。
- (2) 看護師間で話しやすい雰囲気作りをし、意見があればその都度話し合い、良い意見が出れば、ポジティブに取り入れるよう努めた。
- (3) 各職種間で連絡を密にし、スムーズに業務が行えるよう努めた。
- (4) 内外の研修に参加し、意識改革とレベルの向上に努め、参加者は伝達し、資料提供し、各自が読み理解するよう努めた。
- (5) 施設全体での接遇研修や虐待防止研修に参加し、出来るよう個々が努めた。
- (6) 人材育成に努めた。

①新入介護職に看護主任が医務研修を行い、受け持ち看護師が、日々の業務で育成していくよう努めた。

②内部研修に参加させて頂き、心肺蘇生法や誤嚥時の研修、吸引、感染症等、研修委員が組んだ研修で、担当になれば、担当者がレジメを作り、研修出来るよう努めた。

③3月より看護職で1名入職者ありオリエンテーションを行った。

8. ターミナルケア

ターミナルケアは主治医がターミナルと診断してから、個々のケースにより異なるので、入居者様と家族様が望まれる事を予めお話をお聞きするよう努めた。平成25年より胃瘻はお受けできなくなったので、希望されている入居者様には、予めお話しするよう努めた。当ケアハウスで看取り介護を希望される方は、看取りの同意書を頂き、業務がスムーズに行えるよう努めた。

9. 感染対策

現在どの感染症が流行しているか、社会の情報をキャッチするよう努め、保健所、主治医、施設長の方々から得た情報を下に、感染の疑いが起れば、感染症マニュアルや感染対策会議から来る指示に従い、全員が共に協力し感染拡大しないよう努めた。

①成人用肺炎球菌ワクチン予防接種

平成26年度より、自治体が推奨しているので、希望者は本年度も施行した。

②疥癬

9月7日に、8月末に退所された方の主治医より疥癬に掛かったと報告あり、疑

いのある入居者様は、皮膚科受診し、医師の指導の下、感染対応し拡大しないように努めた。

③結核予防にて年1回の定期健診を行い、結核に感染していらっしゃる方は無く、保健所に報告した。

10. 口腔ケア

歯科医師の検診と歯科衛生士による口腔ケアの指導の継続を行った。

11. 看護職員の健康管理

お互い健康に留意し健康維持増進に努めた。

表1 介護型ケアハウス サンライフ魚崎 26年受診・往診状況・その他

月	往診件数	受診件数	入院件数	救急件数	薬管理数	現在数	退所	入所
H26年4月	90	14	3	0	47	48		0
5	103	22	5	1	47	48	2 (1CHでターミナル・1自宅)	0
6	93	8	4	0	45	48	1 (HPでターミナル)	3
7	80	3	2	1	46	48	1 (HPでターミナル)	1
8	116	15	3	0	47	48		0
9	109	13	2	0	47	48		0
10	103	11	0	0	47	48		0
11	141	10	0	0	47	48	1 (他施設入所)	1
12	107	15	2	1	48	48	1 (HPでターミナル)	1
H27年1月	106	8	5	1	47	48	(2CHでターミナル・1他施設)	1
2	94	14	4	1	46	48	2 (HPでターミナル)	3
3	101	17	2	0	47	48	1 (HPでターミナル)	2
合計	1243	154	32	5				12

表2 27年受診・往診状況・その他

月	往診件数	受診件数	入院件数	救急件数	薬管理数	現在数	退所	入所
H27年4月	87	15	1	1	48	47	3 (3CHでターミナル)	1
5	100	15	2	0	47	48		3
6	108	16	1	0	47	48	(1CHでターミナル・1他施設)	0
7	104	36	1	0	47	48	1 (HPでターミナル)	2
8	100	22	1	1	47	48	1 (CHでターミナル)	2
9	93	25	1	1	47	48	1 (CHでターミナル)	0
10	106	21	2	1	47	48		0
11	128	16	2	1	47	48	2 (1他施設へ入所・1CHでターミナル)	1
12	85	14	2	0	47	48	1 (HPでターミナル)	1
H28年1月	86	17	1	0	47	48	1 (CHでターミナル)	1
2	96	15	4	0	47	48	2 (2CHでターミナル)	1
3	92	13	3	0	47	48	1 (他施設入所)	2
合計	1185	225	21	5				15

入院された方の病名

- 4月1件：心不全・胸水
- 5月2件：1件は4月からの引き続き：1件は誤嚥性肺炎
- 6月1件：5からの引き続き
- 7月1件：誤嚥性肺炎で回復されず、病院でターミナルとなり永眠される。
- 8月1件：誤嚥性肺炎
- 9月1件：左大腿骨頸部骨折
- 10月2件：1件は9月からの引き続き：1件は左大腿骨頸部骨折
- 11月2件：1件は10月からの引き続き：1件は肺炎・胸水・心不全・腎不全
- 12月2件：2件とも11月からの引き続き
- 1月1件：右大腿骨転子部骨折
- 2月4件：1件検査入院：1件胆嚢炎：1件脱水症：1件胆管炎
- 3月3件：2件引き続き：1件検査入院

救急理由

- 4月1件：呼吸困難があり救急要請し、かかりつけの病院受診し緊急入院となる。
- 8月1件：呼吸困難があり救急要請し、かかりつけの病院受診し緊急入院となる。
- 9月1件：転倒され骨折の可能性あり、救急要請し病院受診し緊急入院となる。
- 10月1件：転倒され骨折の可能性あり、救急車要請し病院受診し緊急入院となる。
- 11月1件：呼吸困難があり救急車要請し、かかりつけの病院受診し緊急入院となる。
- 12月から3月迄0件

経過観察及び考察

上半期にケアハウスで6名の方がターミナル期を迎え最期を過ごされた。あとの1名は持病に心不全があり誤嚥性肺炎を発症しケアハウスでの最期は難しいと主治医が判断され入院となったケースで、病院で看取りとなった。他1名は他施設に移りたいと希望され退所となる。

4月に心不全・胸水で緊急入院された方は、8月にも状態が悪くなられ誤嚥性肺炎で入院され、その月に退院され11月に肺炎・胸水・心不全・腎不全で緊急入院され、12月に病院で永眠される。昨年1年を通して病院でのターミナルは1件で、ケアハウスでのターミナルは6件

で、ケアハウスでのターミナルは2件だった。今年は病院でのターミナルは2件で、ケアハウスでのターミナルは10件だった。昨年と比べるとケアハウスで終末期を過ごされる方が増え、職員共々サービス向上に努めたと思う。

9月に2名転倒され、1名は左大腿骨頸部骨折で入院され、他1名は整形外科受診し、右上腕骨踝上骨折、右大腿骨転子部骨折と診断され、整形外科に往診に来て頂き、ケアハウスで治療し治癒し、現在もケアハウス入所中である。10月に1件転倒され左大腿骨頸部骨折で入院される。1月に1件転倒され右大腿骨転子部骨折で入院される。年間4件転倒により骨折があり、職員が転倒防止に努めるという意識付けがなされた。

2月の4件の入院は上記の通りで3件は腹部症状を訴え、2件は命に影響する症例で入院に導かれ救命に繋がって良かった。他1件は検査入院で、原疾患は色々お持ちだが、著変なく短期間で退院される。他1件は脱水症で、食事量減り、経管栄養を選択され、3月他施設に移られた。